



福祉と住環境を考える ふくてっく

2004年7月
第59号

特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F Iビル
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.occn.zaq.ne.jp/fukutech/

5月定例学習会
平成9年5月1日(土)
ケアマネージャー・PT
谷口 昌宏 氏

* * *

私は昭和54年にPT資格を取得し平成8年からはケアマネージャーとして在宅サービスセンターに勤務しています。本職はPTですが、ケアマネージャーを兼ねているので、両方の接点に置いており、その立場から特に福祉用具には私発の開発用具が多数に上っています。

私の目からみれば、ケアマネージャーを含むこの業界全体の底上げが必要でしょう。

ところで、介護保険をめぐるとこの1週間の動きで注目されるのは、ベッド、車いす、ポータブルトイレが



住宅改修と福祉用具の活用 ケアマネージャーはもつと勉強を

支給対象から除外されたこと。ただ、全てがだめだということではなく、しかるべき事由の有無が問われています。いかに理由付けできるかがケアマネに課せられていますが、厚生労働省はけつして手の内は明かさなから、当然、各市町村ごとに甘口辛口の温度差があるのでしよう。しかし、ここでへたに突っ込んでおられると、すべて否定されてしまうから注意が要ります。

本論に戻って、ケアマネがなぜ勉強しないか。それは実務研修がないからです。ケアマネ自身が福祉用具や住宅改修を知らなすぎます。

そもそも介護保険による住宅改修の上限設定はなぜ設けられたかご存知でしょうか。それは、まず本人の資産形成につながる事、次に賃貸住宅との均衡を図るべきこと、そして以上のような背景により比較的小規模な工事を前提としていること、がその根拠と

されているのです。それから、介護保険による住宅改修のキーワードは「高さ」にあります。そこには「お手が不自由」への観点が出てくるのです。従って、和便器を洋式に改めるのはよいが、洋便器に洗浄装置をつけることは認めません。和便器を洋式に変えたらウォッシュレットがついてくるのはかまわないのです。

今後、求められるのは「事業の適正化」ということです。実際、要支援に対して3モーターベッドや褥瘡防止用具が支給されていたりしたことが問題視されています。

福祉用具の選択や住宅改修にはPTやOTが関わっているという必要性がよいよ増しているというところでしょ。

肝心のポイントは、「あれば便利」という程度のものであれば、多少のデメリットがあると思われないが、「なければならぬ」といっても欠かせないということ。それから「がんばれ、がんばれ」という前に、ちよつと手すり一本がリハビリテーションにつながるということなのです。



- 1 動作をよく観察する。ふだんりの動作をきめ細かく観察することが大切。
 - 2 疾病や障害に関する考察。「なぜできないのか?」を専門的に分析する。
 - 3 福祉用具との併用
 - 4 他職種や専門職との連携
 - 5 良い事業者との連携
- ところで、ケアマネ協会も昨年やつと全国組織としての協会ができて、初めて今年の審議会に会長が選ばれました。すなわち、昨年の介護保険改定にはケアマネの声は反映されていなくて、なにはともあれ組織化がなければ、力にもならないということでしょう。
- (記 中北 清)

子ども 木工教室



都まちびらき フェスティバル



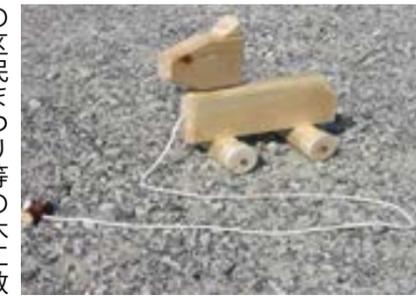
茨木市・箕市にまたがる北大阪の丘陵部に新しいまち「都」が誕生し、4月25日(日)まちびらきのお披露目がありました。

ふくてっくはサブ会場で木工教室を開催しました。なんと、ふくてっくの右は「大阪府森林組

合」、左は「自然暮らしの会」と、3つの木工教室が並びました。ふくてっくは「さんぽ犬」「汽車型エンピツ立て」「ふくろう」のキットをそれぞれ9セットずつ準備しました。

お昼ごろからぼちぼちと子どもたちが集まって来て、順調な滑り出しとなりましたが、「大阪府森林組合」は杉を使って(間伐材だよと言ってました)立派なキットを用意しており、大人でも欲しくなるような、イラス・マガジンラック・プランターの作品作りを提供しており大人気。これにはふくてっくも太刀打ちできません。それでも小さな子ども達もふくてっくの木工を楽しんでおり、3時ごろにはキットが無くとなり、後は木片を使っての自由木工となりました。

3時ごろにはキットがなくなり、後は木片を使っての自由木工となりました。



の区民まつり等の木工教室とはちよつと様子が違

住之江区の粉浜サポーターカレッジにおいて、6月9日(土)「手作り木工作品を作ろう」が行われ、ふくてっくがスタッフとして参加しました。作品

粉浜サポーター カレッジ

は「飾り椅子」です。課題は①ノコギリを使う②木をまっすぐ切る。③ゲンノウで釘を打つ④釘が曲がらないように下穴を開ける。です。参加者は親子づれから中高年、お年寄りまで約30名でした。

椅子を作るので4本の脚を揃えるのが難しいのですが、ひとりで作った人、親子で作った人、ふくてっくに手伝ってもらってうまく出来た人と色々で、2時間を精一杯に使って奮闘ぶりでした。どの人も笑顔で「楽しかった」と言ってくれました。

最後に2年生ぐらいの女の子が私に握手してくれました。自分の思うような作品ができた満足感の表れだと感じました。携帯電話やパソコンの世界で遊んでいる子ども達にとって、自分の手で物を作る楽しさを味わうことは、とても大切な事だと思えます。

飾り椅子のアイデアとレジン作成の杉浦さん、材料の手配・準備の有馬さん、当日スタッフ池端さん、長岩さん、搬入・搬出の八木八郎さん、私も仕事の合間をっての参加でした。

(木工部 光川 環代)

定例会のお知らせ

- 8月 日時 8月7日(土) 午後1時 30分~5時
場所 大阪市立社会福祉センター会議室
学習会 青年後見制度について
講師 黒河 貴司氏 司法書士
- 9月 日時 9月4日(土) 午後1時 30分~5時
場所 大阪市立社会福祉センター会議室(予定)
学習会 生協「サービス施設」よりあい金剛「企画から完成まで」
講師 西川 三記子氏 建築士
- ※例会終了後に定期総会を行います



ちよつと気になる木のはなし 建材、健康にもいい優れもの



6月定例学習会
平成26年6月5日(土)
オフィスママ(木材情報コンサルタント)代表
松山 将壮 氏

(財)日本木材総合情報センターは前身の日本木材備蓄機構が解組されてできた法人で、その中に「木のなんでも相談室」が設けられている。大阪にも6年前から設置されており、私は縁あって前任者の後を受けて週に1回勤めている。一方は、「木の何でも相談」というと、どうやら樹木の事と思うらしく、そうした相談がよく寄せられるが、私は生きている樹はよく解からないのですぐにその方の識者に回している。だいたい、解からん事やい

やな事はよそに回すというのが日本の公務員の得意とするところだ。日本人は木が好きで、国民で、木材は建材としての品質や性能も良く、健康にもいい優れものと評価されている。

樹木には形成層というものがあって、ここで新しい細胞が増殖されて外側に太ってゆく。竹には形成層がないから、その太さはたけのこの時に決まっており縦に伸びるばかりで横には太らない。地下茎のうちにどれだけ栄養を貯えられたかによるのである。木は竹と違い、毎年横に太ってゆき、年輪を形成し、どのように製材するかによって柱目、板目など異なる表情が生まれる。柱目はズイを縦断するにしか生じないのだ。無節の柱は、枝打ちという作業をして育てることによって作られるが、内部に枝すなわち節が残留しており、製材の仕方によっては節が表れる。無節と上小節とでは値段がずいぶん違うのだ

が、無節も節がないわけではなく、表には見えてないだけのことなのだ。

木は暖かいものとされている。そのわけは熱伝導率が低くて接触による失熱率が低いから。住宅用の断熱材のそれを1とした場合、コンクリートは3.5、土が1.25、2という少なさによる。

木は乾燥収縮するので、どのような製材をした材であるかによって様々な変形をする。例えば芯もち材の柱では、いわゆる背割れをしておかないと、表に不規則なひび割れを生じる。また二方柱の柱材は年輪に平行なと垂直なでは収縮の度合いが異なり、四方柱の柱はひし形に収縮しようとする。板目板は木表側の収縮の方が木裏側のそれに比べて大きいので乾燥すると板の真ん中がへこんだように変形する。木材は木取りの方向によって性質が異なるので使われ方も変わる。調度品の中でもご飯のお櫃や飯切りに使われる(まさめ)板が、酒樽には年輪が平行に並んでいる板目板が使われる。

木は水に浮くのが当たり前と思われているが、その比重によって沈むものと浮くものがある。世界中でもっとも重いのはリグナムバイタ(称鉄木)という中南米産の木でその比重は1.25、日本ではウバメガシ、コクタンなどは重くて比重がおよそ2.0なので沈む。その逆に世界中で最も軽い木は模型飛行機などの材料に使われる熱帯アメリカ産のバルサでその比重は0.12。このような樹種による比重・重さの違いはその木材中の空隙のすなわち導管の大きさや個々の細胞の大きさの違いによると考えられるとわかりやすい。

ところで、広葉樹には導管があるが、針葉樹にはそれがなくて仮導管が存在する。針葉樹は広葉樹に比べて原始的で進化の度合いが低く、水分や養分の導も樹体を支える役目も仮導管に依存しているのである。閑話休題。キノキチオールという物質は抗菌作用のあることが広く知られており、石鹸のコマーシャルなどにも登場するが、実はキノキチオールは戦前に台湾キノキから初めて抽出分離されたのでこの名前が付けられたが、実は台湾キノキ

もつとも重いのはリグナムバイタ(称鉄木)という中南米産の木でその比重は1.25、日本ではウバメガシ、コクタンなどは重くて比重がおよそ2.0なので沈む。その逆に世界中で最も軽い木は模型飛行機などの材料に使われる熱帯アメリカ産のバルサでその比重は0.12。このような樹種による比重・重さの違いはその木材中の空隙のすなわち導管の大きさや個々の細胞の大きさの違いによると考えられるとわかりやすい。

トイレのすべて展

～触れて、試して、納得できる～
ふくてっく主催のイベントです。トイレに関するあらゆる情報を提供し、講演も予定していますので、皆さんご参加ください。
(詳しい内容は後日お知らせします。)
日時 10月28日(木)～11月7日(日)
場所 ATCエイジレスセンター テーマゾーン
講演 「トイレ改造のポイント」「障害者のトイレ設計」「排泄用具の適正な選び方」「排泄用具の現状と今後」
目的 本人や家族、介護する人のために、排泄に関する住宅設備や製品や情報を見やすくわかりやすく展示、体験しながら使用者にフィットするものを探し、理解を深めてもらう。
(担当 三浦)

はキノキ属ではないことを発見者の先生は知らなかった。キノキチオールの名「ツヤプリシン」がこのことを表しており、ツヤ(Hime)はネスコの学名であり、キノキチオールは国産材では青森ヒバに外材ではベイスギ(学名Tsuga, plicata)に多く含まれている。ちなみに青森ヒバの抽出成分から生成されたキノキチオールは化粧品・石鹸・繊維の抗菌剤などに利用されており、大変高価で1kg30万円したことがある。最後に家庭でのまな板の正しい使い方。まな板の縁が黒ずんで汚くなったりするして気持ち悪くなると言われるが、これはほとんどがカビ(まれに腐朽菌)の繁殖の所為である。彼らは気温28℃、湿度90～98%で活発に活動するがそれ以下でも以上でも活動できない。まな板を使い終わったら水洗い・洗剤を使用して洗浄・熱湯による殺菌を行いあとはよく乾燥するとよい。わざわざ屋外の風しいところや干さなくても、まな板に丸カンのようなフック金物を取り付けておいて、毎日台所にぶら下げておくだけで十分乾燥できる。刃物傷などで表が凹になったらしかるべき人に頼んで表を削り直してもらおうといつまでもきれいに使

住宅改修事例報告

高槻市H邸 72歳 女性
要支援。親子2世帯住宅(玄関・水廻り全)の1階で一人暮らし。デイサービス週1回。ホームヘルパー週2回の利用。

H邸は僕の母の母のことで。今まで他人の住宅改修は何十軒と手がけてきたが、自分の親の住まいについては何もできていない状態でした。いつかやらんとあかんという思いがずっと続いています。

今年4月初め、自宅門扉の段差でつまずき(?)転倒、救急車で運ばれ即入院。どうして倒れたのかは未だに不明。(母に聞いた



門扉段差解消前



工事後のスロープ

びに言うことが違った) 転倒したときまず顔を門扉の横にあつた、広くて薄い植木鉢の土の部分に打ち付けたのがクッションになり、軽症で済みました。病院嫌いの母は次の朝退院。その事故が住宅改修の契機になりました。室内は母の希望で手すりだらけになりました。計三箇所。真はその一部です。門扉下の20cmの段差はスロープにして段差解消。工事費は8万円をわずかに切る、18万8990円。その後、骨粗しょう症が原因で第3腰椎圧迫骨折。かなり歩行困難な状態が続いています。手すりだらけにして助かっているようです。(記 畑 俊治)



こむねつと部活動報告

6月4日(日) NPOふれあい主催によるまちづくり学習会が矢田人権文化センターで催され、杉浦理事長とともに参加した。近畿大学の奥田均教授による矢田地区が抱える課題と今後の展望についての講義であった。会場にはまちづくり協議会に参加する地域市民や各種専門家、運動家が多数参加し、市民によるまちづくりが本場に息づいている現場に接した思いで

あった。すでに、矢田地区とは前回のタウンウォッチングに参加して以来、過去のいわゆる同和解放とは明らかに異なる次元に進んでいるまちづくり課題とそれらへの取り組みについて、予備知識もある程度は持ち合わせての参加であったが、奥田教授の講義を聴いて、改めて確認できた課題と、新たな気づきを得ることができた。奥田氏は、直接的な部落差は確かに影を薄めるに至ったが、なお根深く残る課題として、「土地に対する差の構図」があるということを指摘された。市民には、部落の土地に対する忌避意識があつて、住宅の購入にあたって①部落の所在地を確かめる②校区内の部落の有無を確かめる③という行為が残っている。こうした問い合わせに対して、不動産業界の商慣行では、これに答える事が差を助長するという認識が薄く、安易に答えてしまふようだ。さすがに教育委員会では市民からのそうした問い合わせには回答を避けるのだが、それに対して抗議をする市民が後を絶たない始末である。そうして部落の土地は有効需要を下げることにになり、結として周辺に比して明らか価格差を生じている。このことが地域への資本投下を妨げ、二次的

な地域格差の固定化につながっているのだ。地価の安さという事が、目に見えない部落に対する差の急所となっている。氏のそうした指摘は、わが国における異常な地価がわが国の住環境を貧弱にしている元久と考えてきた私には意表をつく指摘であり、まさに目から鱗であった。矢田地区は他地区に先駆けて、公的住宅整備が進められたが、今それらが建て替わったという段階に至り、新たな課題がまた先駆的に課せられている。把握される課題の状況改善は真の解決にはならない。過去に推進されてきたハード中心のまちづくりには何が欠けているかを見極めねばならないのだ。

これまでの運動は、差の結としての状況改善だけを目標としてきた。しかしながら真に目指すべきは、「人と人の関わり」という視点の差(人と人の関わりが断ち切られている状況)の回復である。すなわち、豊かな人間関係づくりこそが「まちづくり」にほかならない。矢田地区が抱える課題はいわゆる部落に限られるものではなく、現代社会に共の課題である。今や部落問題は部落の問題ではなく共課題であり、部落はそうした課題がより「ひどく」そして典型的に集積していると考えられる。その

(記 中北 清)